

令和7年度 県立三和高等学校自己評価表

目指す学校像	①基本的な生活習慣の確立を図るとともに、学校行事、体験活動や交流活動等とおして、誠実で豊かな心を育む学校 ②個に応じたきめ細かな学習指導による基礎学力の定着をもとに、確かな学力と自ら学ぶ姿勢を身に付けることができる学校 ③部活動や特別活動の活性化により、心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む澁刺とした生徒を育成する学校 ④望ましい職業観と勤労観の育成を図りながら、生徒一人一人の進路希望の実現を目指し、地域社会の発展に寄与できる人財を育成する学校 ⑤保護者や地域社会と連携・協力をしながら、教育活動の改善と充実を図る開かれた学校		
成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>落ち着いた学習環境を基盤とし、生徒の真摯な姿勢に応える知的好奇心あふれる授業づくりを推進する。ICTの活用や体験活動を通じ、習得した知識と将来のキャリアとの結びつきを可視化することで、受動的な学習から「能動的な探究」への転換を図っていく。</p> <p>外国人支援「支援校」となることを機に、外部専門員との連携を強化し、校内サポート体制を再構築する。考査のルビ振りや日本語指導など、多様な背景を持つ生徒一人ひとりが安心して学べる環境を整備していく。</p> <p>総合探究においては、課題研究を見据えた体系的なプログラムを展開し、教科指導との相乗効果により、地域の発展を主体的に支える人材を育成する。外部企業等との積極的な協働による体験活動を深めることで、学びをより実社会に即したものと昇華させる。これら一連の教育活動を通じ、学びと体験を関連付けて「学ぶ意味」を深め、学習成果が社会で活きる姿を具体的に描き出せるよう導きたい。その一環としての「課題研究」をキャリア教育と共に本校の教育の要と位置づけ、未知の課題に挑み続ける『自立した学習者』へと成長する確かな起点とする。</p>	1 基本的な生活習慣の確立と誠実で豊かな心の育成	①服装容儀の指導方法を工夫・改善し、自立的な生活態度の育成を図る。 ②挨拶や言葉遣い、話を聞く態度の育成等の礼儀指導の充実を図る。 ③いじめの対処方針や指導計画を定め、いじめの未然防止、早期発見や早期解消に向けた取組を組織的に実践する。併せて関係諸機関とも連携し、いじめや暴力のない「安全・安心な学校づくり」を推進する。 ④生徒や保護者とのコミュニケーションを密にして、悩みや相談に応じるとともに、相談しやすい雰囲気作りに努め、SCやSSWの活用と併せて進路変更者をゼロに近づける。 ⑤境特別支援学校等との交流活動や様々な体験活動、学校行事等を活用して豊かな心を培う。 ⑥学校の教育活動全体とおして、人間としての在り方・生き方に関する教育を行い、道徳心や規範意識、社会性等を育成する。	B
	2 わかる授業の実践による基礎学力の定着	⑦わかる授業の実践とおして一つ一つわかる喜びを積み重ね、不得意科目の克服と併せて、生徒に学習への自信を付けさせる。 ⑧習熟度別学習やTT、ICT活用授業等の指導形態の工夫・改善により、きめ細かな指導を実践する。 ⑨コンピューターやタブレットを活用した授業方法を研究する。	B
	3 主体的に課題解決に取り組む学びを実現するための授業改善	⑩授業改善推進プロジェクトチームを中核とした全職員による協力体制を構築し、授業公開及び研究協議等の充実によって生徒の進路実現に必要な学力を身に付けさせるための組織的な取組を推進する。 ⑪「生徒による授業評価」において「授業満足度」3.4以上。（全教員の平均4段階で評価）	B
	4 部活動や特別活動の活性化によるたくましい心の育成	⑫部活動における指導方法の工夫・改善による競技力の向上や、合同チームなどでの試合機会の確保に努め、部活動の活性化を図る。 ⑬球技会等の学校行事とおして協力する心や団結力を育む。 ⑭LHRにおける指導方法を検討し、より有効なLHR活動を推進する。 ⑮挨拶運動やボランティア活動等とおして、生徒会活動を活性化させる。	B
	5 生徒の進路希望の実現	⑯生徒一人一人の資質・能力や適性に基づいた計画的な進路指導を実践する。 ⑰外部講師による講演会等の実施方法を工夫し、企業見学やインターンシップとおして、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。 ⑱礼儀指導や面接指導を組織的に行う。更に資格取得を奨励し、希望者の進路決定率100%を目指す。 ⑲キャリアパスポート等を活用して、積極的に学校行事に関わる姿勢を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会に貢献できる人財の育成を図る。	B
	6 「地域とともにある学校づくり」の推進	⑳学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域社会からの要望や提言を集約し、学校教育の改善と充実に生かす。 ㉑中学校との定期的な情報交換とおして、中高の連携を密にし、中学校や地域社会に信頼され、安心して通うことができる学校を目指す。 ㉒探究活動やボランティアとおして地域社会と連携や協力する心を培い、交流を深める。 ㉓学校ホームページやリーフレットなどを活用して、中学校や地域社会への広報に努める。	A
	7 将来の学校の在り方に関する議論の活性化	㉔新学習指導要領の目的を達成するため、生徒に身につけさせたい資質・能力を全職員で共有し、生徒の実態に即した魅力ある教育活動を創造する。 ㉕グラウンドデザインを基に、「将来構想」に関する議論を活性化し、社会の変化を見据えながら中・長期的な学校のビジョンを確立する。 ㉖入学志願者を増加させるための具体的方策について議論する。	B
	8 持続可能な学校教育のための働き方改革の推進	㉗各学校行事について、目的と効果を検証しながらより有効な実施方法を検討し、精選を図る。 ㉘教材の共有化、ICTを活用した情報の共有化やペーパーレス化などを推進し、業務の効率化を図る。 ㉙部活動運営方針を軸に適正な部活動の数や指導の在り方を検討し、見直しを図る。 ㉚校務分掌の再編や業務の見直しにより、教員負担の分散をすすめる。	A

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○主体的に学習活動や学校生活に取り組む態度、社会性、豊かな人間性、課題解決力の育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○生徒一人一人の多様な学習ニーズにきめ細かく対応した学習活動と体験活動、キャリア教育による、生徒の進路希望の実現			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○基礎学力の向上を目指して学習活動に励み、学校行事、体験活動や交流活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	習熟度別授業の充実を図る。	習熟度に応じた学習状況の分析を実施し、指導方法・指導内容の工夫・共有により、学習の理解度を高め、達成感や充実感、学習意欲の向上を図る。	⑦⑧ ⑨⑭	B	A ・「どこで躓いたか」を丁寧に分析し、基礎をしっかりと身につけるための「学び直し」の時間を大切にする。 ・タブレットなどのICT機器をフル活用し、生徒が自ら進んで学べるような、授業をつくる。 ・ICTを使って情報を整理したり、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会を増やす。対話や表現の場を充実させ、自ら課題を解決する力を育む。 ・考査のルビふりや日本語指導について、外部機関との連携を図りながら効果的な形での導入を図る。
		クラス編成や評価方法など、運用上の課題を改善する。	⑦⑧	B	
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	「できた」という喜びや達成感が味わえる授業、「学び合い」によるコミュニケーション能力をはぐくむ授業、一人一人の実態に配慮した授業を心がける。	⑦⑧ ⑩⑭	A	
	ICT機器の活用を推進し、学びに向かう力の育成を図る。	タブレットや電子黒板の活用を推進し、分かりやすい授業展開の工夫を図る。また、教科横断的な学びを心がけ、様々な現象を多面的に捉えられる姿勢や、学んだ知識を活用した課題解決能力を身に付けさせ、自主学習の習慣化を促す。	⑦⑧ ⑨⑩ ⑭⑮	A	
	言語活動の充実を図る。	発表、発言しやすい雰囲気を作り、意見を述べる場面や考えをまとめる場面、要約の実施など、各教科における授業実践の中で、言語活動の充実を図る。	⑦⑧ ⑨⑩ ⑭⑮	A	
授業改善推進プロジェクトチーム	教育目標を達成するために、組織的な授業改善を行う。	相互授業参観や研究協議、校内研修などをとおして、生徒に合わせた指導方法を話し合い、授業改善に取り組む。	⑩⑪	B	B ・授業改善に向けた、フリーディスカッションの開催。

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	基礎学力の向上と自ら学ぶ姿勢を育む。	音読を通して、様々な文章に接する中で正確な読みが出来るようにする。 ⑦ B	B	・一般的な語彙および漢字の運用能力を定着させるための継続的な指導方法を検討する。 ・観点別評価を活用し、生徒が自信をもって課題に取り組めるような評価方法を工夫し、教科内でも共有することで教員の負担も軽減する。 ・ICTの効果的な使用方法を共有する。
		様々な文章にふれる姿勢を養う。	語彙力を鍛え、思考力、判断力・表現力を培う。 ⑦ B		
		日常生活における伝え合う力を鍛える。	図書館を有効に活用し、読書に親しむ習慣をつけさせる。 ⑧ B		
		個々の到達度を踏まえた授業展開を図る。	教材の選定に配慮し、作品に対する興味関心を持たせる。 ⑦⑧ A		
			場に応じた話し方(敬語を含む)を身に付けさせ、適切なコミュニケーションを図るための話す力・聞く力を鍛える。 ⑦ B		
			ICT機器を活用し、教材や情報を共有し、様々な表現方法を身に付けさせる。 ⑨ B		
	地歴	わかりやすい授業を展開する。	個々の到達度を把握し、取り扱う内容や方法を検討し、積極的に授業改善を図る。 ⑩⑪ A	A	・探究のサイクルを取り入れた学習活動を実施し、論理的思考力を育成する。 ・持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を育む教育を充実させる。
		基礎学力の向上を図る。	生徒に自信を持たせ、学習意欲を喚起する個別指導を展開する。 ⑧ B		
		ICT機器を積極的に活用し、地理歴史に対する興味関心を高める。	授業目標に沿った授業計画を毎時間立案する。 ⑦ B		
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ⑦⑩ A		
	公民	わかりやすい授業を展開する。	プリント学習を利用して要点を整理するとともに、生徒自身の振り返りの時間を設け、生徒の理解度を把握する。 ⑦⑧ A	A	・探究のサイクルを取り入れた学習活動を実施し、論理的思考力を育成する。 ・成年として生きていくための知識や社会参画意識を育む教育を充実させる。
		基礎学力の向上を図る。	学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して適宜補習を実施する。 ⑦⑧ B		
		ICT機器を積極的に活用し、公民に対する興味関心を高める。	ICT機器の活用により言語活動の充実を図り、公民に対する興味を持たせる。 ⑧⑩ A		
	数学	基礎学力の向上を目的とし、個に応じた指導を心がける。	写真や映像などを用いて、地理歴史に対する興味関心を高める。 ⑧ A	B	・義務教育内容の学びなおしと高校数学基礎内容の両立した指導を継続して実施。 ・毎時間のフィードバックを活用した、個別最適な学びができるような授業展開の構築 ・定期考査前の事前学習を通して、学びの習慣化させる。
		学習意欲を高め、わかる喜びを実感できるように授業改善を推進する。	習熟度別クラス担当者間の連携を深め、定期テストや基礎力診断テストなどの結果について分析・共有して、個別最適な学びの実践の目指し、フィードバックを活用する授業を展開する。 ⑦⑧ B		
		学習指導要領に応じた指導と評価を行うよう努める。	基礎・基本がなかなか身につかない生徒や成績上位者に対して、必要に応じて個別指導をおこなう。 ⑧⑩ A		
			生徒の抱えている疑問や誤りやすい箇所を的確に把握し、学習段階にあった適切な課題を提供し、発展的思考を誘発する。 ⑦⑧ A		
			ICTの効果的な活用により、原理・法則の良さや有用性、定理や公式の汎用性に気付け、数学を学ぶ意義が見出せるように工夫する。 ⑦⑧ B	B	
		言語活動や体験活動を取り入れた学習場面をつくり、主体的な学びを援助する。 ⑦ B			
			新しい観点別の評価のためにこれまでの工夫に加えて授業ごとに振り返る場面を設けて、生徒の学びを援助できるような評価を行う。 ⑧ B	B	

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科	理科	生徒の視点に立った授業を展開する。	生徒の理解度、興味関心を確認しながら、理解しやすい授業を展開する。 ⑦ A	A	・教員が定期的に行っている実験のアイディアを共有する場を設ける。 ・理解が不十分な生徒に対して、復習プリントだけでなく、補習等を検討する必要がある。	
			授業終了後に指導内容を振り返り、その反省点を次の授業の改善に活かす。 ⑦ B			
		基礎学力の向上を図る。	プリント学習とプレゼン用ツールを利用して、要点を整理するとともに、生徒の理解度を確認して、基礎的基本的事項をしっかりと理解させる。 ⑦ A			
			学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して、必要に応じて補習を実施する。 ⑦ B			
		自然に対する興味関心を高める。	生徒実験の実施回数を増やし、演示実験などを効果的に用いて、自然の事物や科学的な現象に対する興味関心を持たせる。 ⑦ A			
	授業改善	電子黒板やタブレットを活用して映像やデータなどを提示し、自然の事物や科学的な現象に対する理解を深める。 ⑧⑨ A				
	保健体育	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。	生徒の現状を踏まえ、生徒の興味関心や能力に基づいた授業を展開し、授業公開や研究協議の充実を図るなど組織的な取り組みを行う。 ⑩⑪ B			
		個に応じて体力を全体的に高めるようにする。	身の回りの健康問題について、疾病との関連や社会への影響などと関連づけて指導する。 ⑦⑧ B		・タブレット等のICT機器を使用した授業事例を教員間で共有し、より良いICT活用に結び付ける。	
		基礎体力・運動能力の向上を図る。	スポーツテストの結果を活用し、それぞれの体力レベルにあった補強運動を定期的に取り入れる。 ⑦⑧ B			
			各領域と関連づけた体づくり運動を毎時間取り入れ、仲間とコミュニケーションを図りながら、運動量の確保に努める。 ⑧⑩ B			
	自らの健康を適切に管理し、改善する能力を育てるように授業改善を実践している。	各領域において、楽しく運動をおこなえるよう、公正公平な態度で積極的に授業に取り組む生徒を増やす。 ⑧⑨ B				
	芸術	芸術を愛好する心情を育て、より深く芸術を味わう。	タブレットやICT機器を活用して自らの運動課題を発見し、改善する方法を考えさせる。 ⑨⑩ C		A	・ICT機器を活用し、よりリアルな芸術体験を行い、授業の幅を広げ、深い学び印象的な授業へとつながるようにする。 ・様々な芸術分野や芸術作品に触れさせ、豊かな心と感受性豊かな人間形成につながるようにする。
		芸術的感性を高め、豊かな情操を養う。	個に応じた指導により、基礎・基本の定着を図る。 ⑦⑧ A			
			タブレットやICT機器の活用により、より分かりやすく、活動しやすい形態を目指し、深い学びに繋げる。 ⑧⑨ B			
	英語	個に応じた指導を充実させ、義務教育段階での学習内容の確実な定着と基礎学力の向上を図る。	様々な芸術分野に触れさせ、その経緯や時代背景への理解とあわせて芸術的感性を高める。 ⑥⑩ A		B	・1、2学年の授業は習熟度別学習を継続しており、生徒の学習定着度を見ながら授業を進めることができた。 ・多くの生徒がALTの授業を楽しんでいるため、ALTと英語でやりとりをする機会(ライティングを含む)を増やし、英語学習に対する意欲を高めていきたい。 ・中学校での既習文法が定着していない生徒が一定数おり、教科書の内容とは別に、復習や基本のインプットが必要であると感じる。
		言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	鑑賞活動を取り入れ、多くの芸術作品に触れさせることで豊かな情操を養う。 ⑥ A			
			習熟度別学習による少人数指導によって生徒個々の能力に応じたきめ細かな指導を行い、各生徒が抱えている得手不得手や理解度などの傾向を分析し学習内容の定着に努める。 ⑦⑧ B			
			授業でのグループ活動やペアワークを通して英語でのコミュニケーションや言語活動に対する興味を持たせ、主体的な態度を育成する。また、ALTとの交流を通して多様な文化への関心や興味を引き出す。 ⑦⑧ B			
			紙媒体の教材も併用しながらも、電子黒板やタブレットを活用し活動内容に応じて効果的な授業教材を提示する。 ⑦⑨⑩ B			
	指導に関する検証改善サイクルを確立し、より分かりやすく内容を定着させるために授業改善を図る。	科全体で授業目標やねらいを明確にした上で単元ごとの内容や活動について綿密な計画を作成し、実践する。 ⑦⑧ B				
	4技能を伸ばさせるための言語活動を、生徒一人一人の能力や特性に合わせた形式で実行する。 ⑪ B					
	授業内容や教材について担当者間で共有をし授業を実施する。また、定期的に授業内容や指導を振り返る機会を設け、科全体で情報を共有して次の授業に活かす。 ⑨⑩ A					

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	家庭	ICT機器を活用し、日常生活に必要な知識や技術を身につけさせる。	ワークシートや学習ノートを使用し、定期的に内容の確認をすることで知識を定着させる。	⑦	B	授業内容全体が、実生活に即している内容なので、単に知識を教えるというよりは、授業内容をもとに、生徒個々が実生活の場面場面で工夫し、考え行動できるようにしていきたい。そのためにも、自分の考えを言葉で表現できるよう、グループでの活動を増やしたい。
			電子黒板やタブレットを活用し、視覚教材を多用した被服実習や調理実習を数多く体験させ、基礎的な技術を習得させる。	⑦⑨⑩	A	
		授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。	⑦⑩	B		
		生活の中から課題を見つけ、創意工夫し生活の向上を図る。	ホームプロジェクトを実施・発表させることにより、生活の質を向上させ、家族のコミュニケーションの深化を促す。	⑦⑧	A	
	消費者問題や環境問題などの身近な問題について考えさせる。	消費生活の問題について学習し、早期解決法を習得させる。	⑦	B		
		資料集やタブレット、電子黒板を活用し、班別に調べたり発表したりすることで、問題意識を持たせる。	⑦⑨⑩	A		
	情報	コンピュータの基本的操作の習得を目指す。	情報検索技術や主要なソフトウェアの操作等、基本的な情報技術を習得できるよう計画的に指導する。	⑨⑩	A	個別最適な学びは実現できていると思うが、授業内容をより深く理解してもらうために、グループ活動を増やしていきたい。
			基本的なキータッチの指導を行い、正確で迅速な入力操作を目指す。	⑨	B	
		情報モラルの定着に努める。	視聴覚教材などを利用し、情報モラルの理解に努める。	③⑥	A	
			調べ学習を通して、実生活で起こりうる著作権侵害などの問題を把握させる。	⑥	A	
	デジタルシティズンシップについての理解を共有し、情報社会への参加のために必要な能力を養う。	コンピュータや情報配信ネットワークの正しい利用を促すため、視聴覚教材・ソフトウェア・インターネットを効果的に組み合わせて指導する。新しいテクノロジーがもたらす機会を考慮し、情報に基づいた選択ができることを目指す。	⑩⑫	B		
		各種研修会に参加して、自己研鑽に努め、教材や指導法の工夫など、日々授業を改善しながら、情報社会への参加のための効果的な指導ができるようにする。	⑪⑫⑫	B		
福祉	基礎学力の向上と社会福祉に関する基礎知識の習得を図る。	教科書やプリント、タブレット等を使って、わかりやすい授業を展開し、自分の考えを文章にまとめたり発表する機会を通して社会福祉の意義や役割を理解させる。また、授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。	⑦⑧⑨⑩	A	受け身の授業ではなく、生徒個々が介護の場面を想像し、考え、アイディアを出し意見交換を行い活動的な授業にする。	
		人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。	車イスの介助体験や障害者体験（体の不自由な人の体験）などの実習や総合的な探究の時間と連携した外部施設での体験を通して、幅広く社会福祉を学ばせる。	⑤⑥⑫		B

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教 務	学校行事の精選と、効率的な行事の運営を促し、働き方改革を推進する。	月初めに2か月先までの行事予定案を提出し、円滑な運営を目指す。 行事の企画・運営においては、関連校務部・学年・教科等との連携、調整を図りながら円滑な実施に努める。今年度は本校創立40周年記念式典を控えており、関係各所との連携をこれまで以上に重視し、記念行事を含む各種行事が円滑かつ意義深いものとなるよう努める。	20 27 27 28	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、日本語が不得意な生徒への対応について「考査問題へのルビ振り」を教科担当者裁量のもと実施したが、学校全体として外国籍生徒への支援体制の構築が必要である。(外部機関との連携も含む) ・相互授業参観だけでなく、授業改善プロジェクトチームと連携した、「授業力を向上させるための工夫」について研究を進める。 ・学校設定科目について、活動内容を職員全体で共有し、持続可能な形へ修正・改善を進める。
	教育課程の円滑な実施に向け、より具体的な授業計画の検討や、持続可能なカリキュラムマネジメントの充実を図る。	基礎学力の定着を軸とした、組織的かつ計画的な教育活動に取り組み、学びの基礎診断等を活用したPDCAサイクルの推進を図る。 観点別学習状況の評価を明確にし、きめ細かい学習指導と個に応じた指導の充実を図る。 日本語の習得に課題のある外国籍の生徒に対しては、校内での支援に加え、外部機関との連携を図りながら、学習面でのサポートを充実させる。 学校の将来構想に基づき、身につけさせたい資質・能力の育成を踏まえた新しい教育課程の充実を図る。	7 8 9 10	B	
			7 8 9 10	B	
			7 8 9 10	B	
			10 24 25	B	
	日常業務の改善を図り、働き方改革を推進する。	習熟度別授業や選択授業に対応して、授業交換・填補を円滑に主導する。 校務支援システムを用いた、要録・調査書等の処理および、観点別学習状況を踏まえた成績管理等を円滑に行う。 奨学金制度の情報を周知し家庭の理解と協力を求め、充実した活用を図る。 教科書の採択事務を適正に行う。	27 28	A	
			27 28	A	
			20 23 20 24	A A	
	学校ウェブサイトの更新に努め、積極的な情報発信を推進する。	各校務部や学年等と連携し、積極的な更新作業や、情報発信を心がけ、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。	20 23	A	
	図書および視聴覚教材の充実を図る。	生徒の学習および職員の研修がよりよく進められるよう、図書資料および視聴覚教材の充実を図る。	6 7 10	A	
図書館の環境整備に努める。	生徒の学習および職員の研修にふさわしい図書館となるよう、図書館の美化や図書の配置等を工夫し、利用しやすい環境を整える。	6 10 28	A		
図書館および視聴覚教室の積極的な利用推進を図る。	授業やHRの中で、施設および蔵書・視聴覚教材の積極的な利用を図る。	7 10	A		
進路指導	生徒一人一人の能力・適性の発見と伸張を図り、進路選択を支援する。	各種の検査等を実施し、能力や適性の診断をすることで、自己の適性を理解させる。 各教科と連携し、進路実現に必要な基礎学力を身に付けさせる。 LHRや総合的な探究の時間を活用し、進路意識を高める。	16 7 8 14 16	A B A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の能力、適性に合った進路先を早めに考えさせ、3年次に生徒それぞれの進路目標の早期実現を図る。 ・来客スペースを4か所に増やしたが、求人票受付対応する人員が少ない時があったので、人員調整をしたい。
	個人の特性に応じた進路指導により進路意識の確立をはかる。	1年次から進路講演会や分野別学習会を実施し、自己の進路や生き方を考える。 2年次においては、実践的なキャリア教育を実施し、職業観を育成する。 3年次においては、就職・進学に向け、生徒それぞれの進路目標の実現を図る。	16 17 18 19	A	
			16 17 18 19	A	
			16 18	A	
	ICTの活用による進路情報の充実をはかる	生徒・教員への求人票情報などは、紙媒体だけでなく、ICTも活用する。	28	A	
	保護者への情報提供の場を確保し、HPの更新に努め、積極的な情報発信を推進する。	進路便りを発行し生徒・保護者に配布する。HP係や学年等と連携し、積極的な更新作業や情報発信を心がけ、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。	20 23	A	
働き方改革を推進する。	業務内容を精選・効率化すると共に、進路室の来客スペースを整理して来客対応を効率化する。	27 28	A		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	いじめや暴力のない「安全・安心な明るい学校づくり」に努める。	生徒の変化について早期察知と教員間での情報共有に努め、組織だった対応によりトラブルの未然防止と迅速な解決を目指す。 ③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS関連のトラブルが複雑化している社会状況を踏まえ、対策と未然防止に努める。 ・安心安全である学校を目指し小さなことでも情報を共有して、組織的に対応することを継続する。 ・生徒、保護者、家庭環境が多様化しているため、外部機関（S C、SSW、SL等）との連携してチームとして問題解決に向けて対応する。 ・学校生活の大半を占める授業において、生徒支援の視点を踏まえた学びの実践を推進する。
		二者、三者面談などあらゆる機会を利用し、生徒・保護者・学校が良好な関係を築き、相談しやすい雰囲気がつくれるよう、関連情報を提供し学年団を援助する。 ③④	A	
		生徒会協働の生活委員会あいさつ運動はもとより日頃からあいさつを奨励し、礼儀正しい集団かつ明るく過ごしやすい学校環境作りに努める。 ②⑥	B	
	規範意識や基本的生活習慣を確立する。	服装容儀指導を毎月実施するほか、授業や校内生活、登下校時において指導していく。改善が見られない場合の段階的指導を積極的に行う。 ①⑥	B	
		授業に参加する姿勢を整えるため、遅刻の段階的指導および授業態度に対する指導を行う。 ⑥	B	
教育相談体制の充実を図る。	学校だけでは解決が困難なケースについて、専門性を有するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、課題を抱える生徒の支援をおこなうため、生徒や保護者へのカウンセリングを効果的かつ円滑に実施できるよう、係と担任の間で生徒情報や実施時期について共有に努める。 ③④	A		
働き方改革を推進する。	校務の実態を把握し、内容に応じた電子化やマニュアル化、明確な分担、資料の事前配布など業務内容や効率の改善を図り働き方改革を推進する。 ②⑦⑧	B		
特別活動	ホームルーム活動をとおして、望ましい人間関係を養う。	教師の適切な指導で、生徒の自発的な活動が効果的に展開されるようにする。 ⑬⑭	B	見通しを持って、準備を早めに行う。 1人の先生に負担が偏ってしまった。そのため、特活部会を適宜実施し、仕事内容を全員で把握する。また、その中で役割分担も行い、先生1人1人の業務量を客観視できるようにする。
		有意義な集団生活を築くために、集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や、人間関係形成能力を高める活動を充実させる。 ⑬⑭	B	
	生徒会活動をとおして、所属感や連帯感を高め、次世代に繋げる。	ホームルームや学年を超えた異年齢集団による生徒相互の交流を活性化させる。さらに、タブレットを利用した計画・実施や記録を生徒自身が行い、継続的な活動の一助とする。 ⑫⑬⑭⑮	C	
		生徒会活動が行われる諸集団において、生徒一人一人が何らかの役割を持ち、充実感や存在感を味わうための援助をする。 ⑮	A	
		望ましい人間観、勤労観、職業観を身につけさせるために、ボランティア活動などの体験的な活動を充実させる。 ⑮⑯	A	
	学校行事をとおして、学校生活に秩序と変化を与え、達成感を高め学校生活の充実と向上を図る。	生徒の学校生活にリズムを与え、折り返しを付け、新しい生活の展開への動機付けとなるような行事を実施する。 ⑬	A	
		各行事の教育的意義を明確にし、生徒が協力して活動することにより、達成感を得ることにより、望ましい校風を育てていく。 ⑬⑭	A	
働き方改革を進める。	キャリアパスポートを活用し、生徒自身が自己の活動を振り返る機会を設け、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 ⑰	B		
	校務の実態を把握し、内容に応じた電子化やマニュアル化、明確な分担、資料の事前配布など業務内容や効率の改善を図り働き方改革を推進する。学校行事及び生徒会活動などをICTの活用で、効率化を図り、作業手順を最適化することに繋げる。新しい手順での学校行事の進め方を構築する。また、ICTの活用で時間短縮やペーパーレス化を図る。 ⑲⑳㉑㉒	B		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健厚生	心身の健康保持・増進に努める。	定期健康診断、体位測定、性教育講話や薬物乱用防止講話などを通して、心身の健康の大切さを認識させ、自己や他者の生命を尊ぶ考え方を育む。 円滑な保健室運営及び適切な応急処置・感染症対策により、心身ともに健康で安全な学校生活を送ることができる環境作りを心掛ける。	⑥	A	B ・定期検診・保健業務・保健厚生行事の円滑な実施を継続する。 ・清掃活動をより徹底して行えるように、分担場所・清掃用具などを見直す。 ・各教室に設置しているCO2モニターを活用して、換気を呼びかけていく。
	学習環境を整備する。	清掃活動、安全点検などにより、校内の美化・整備に努め、よりよい学習環境をつくる。特に大勢の来客があるときは特別な清掃をする。 暖房器具や空調設備の安全管理を徹底するとともに、温度・湿度・大気中各種濃度の環境整備に十分留意する。	⑥	B	
	災害時の適切な対応の徹底を図る。	防災計画に基づいて地域とともに校内防災に努める。また、防災避難訓練などを通して生徒の安全意識の高揚を図る。	⑥⑱	A	
	保健厚生サービスの充実に努める。	昼食販売業者を確定させ、自動販売機も活用し、生徒が利用しやすい環境を整えるとともに、校内販売が健全な食育に資するよう配慮する。	⑥	A	
	働き方改革を推進する。	グーグルドライブを利用して、部内連絡の効率化を図る。	⑳	B	
	渉外	開かれた学校づくりに努める。	PTA行事や役員会を通して情報を発信するとともに、保護者との連携を図る。 各支部の円滑な運営をサポートする。 保護者の要望や提言を集約し、学校教育の改善と充実に生かす。	⑳⑳ ⑳⑳ ⑳⑳	
探究企画	探究活動を企画・実施する。	学習指導要領の目的を達成するため、高校生活3年間を通じた探究活動を創造する。	㉒	A	B ・進路活動とも関連させ、探究活動における連携先を新規開拓する ・各探究行事の関連性を整理し、3年次の課題研究を集大成に据えた、3年間の一貫した体系を構築する。
		探究活動をとおして地域や外部機関との連携や協力する体制を構築し、活動内容の具体化に努める。	⑳㉑ ㉒⑳	B	
		各学年と連携し、年間を通じた総合的な探究の時間の活動を充実させるとともに、授業記録を残し今後の活動・授業改善や企画に役立てる。	⑩⑳ ㉕	B	
	働き方改革を推進する。	課題研究においてICTを活用し、情報の共有化やペーパーレス化などを推進し、業務の効率化を図る。各活動についてより有効で効率的な実施方法を検討する。	㉗⑳ ⑳	A	
1学年	基本的な生活習慣を身につけさせる。	月初めの服装容儀指導、毎時間の授業における指導のみならず、休み時間や登下校においても、きちんとした身なりを徹底させる。 家庭との連絡を密にし、安易な欠席・遅刻・早退の防止に努める。	①	A	A ・限られた生徒であるが、安易な欠席・遅刻が見られる生徒がいるため、個々の事情に応じた指導をより充実させていきたい。 ・スマホを使う上でモラルが欠如している様子が見られた。入学して間もない頃にどのような指導をしていくべきかが課題である。 ・部活動加入率は高くないため、年度途中からでも入部できるよう促していくべきだと感じた。
	いじめが起らないような環境づくりに努める。	生徒の観察・挨拶指導・個人面談等を通して、生徒の理解に努める。 学年内、保健室、保護者等との様々な情報交換を密にするとともに、授業も有効に活用し、いじめや問題行動を未然に防止できる体制を整える。	②⑥ ③④ ⑥	A	
	基礎学力の向上に努め、自ら学ぶ姿勢を育てる。	習熟度別学習やT T等、指導形態を工夫することにより、基礎学力の定着を図る。 コンピューターやタブレットを活用した学びの進め方を研究し、情報社会で生きるために必要な心構えと情報スキルを身につけさせる。	⑦⑧ ⑨	A	
	進路についての啓発を図る。	放課後の補習や個別指導を通して、苦手教科の克服に努める。 進路講演会・キャリア探究・バス見学会等を実施し、早い段階から進路に関する意識付けを図る。	⑧ ⑩⑱ ⑱⑱	A	
	学校行事や部活動への積極的な取り組みを促す。	各種行事を通して、集団生活を体験させるとともに、集団の中での個の役割を自覚させる。 ボランティア活動への参加や部活動加入を促し、放課後の学校生活の充実を図る。	⑬⑭ ⑮⑳	A	
	働き方改革の推進を図る。	行事の実態を把握し、実施方法を工夫しながら状況に応じた精選を図る。また、業務の削減や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。	㉗⑳	A	

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
2 学 年	基本的な生活習慣を身につけさせる。	日頃からあいさつ・時間厳守・整理整頓を心がけ、良好な生活習慣の確立に努めさせる。 ①	B	<ul style="list-style-type: none"> ・服装容儀で何回も指導を受ける生徒がいた。進路決定に向け、身だしなみの大切さを粘り強く指導する必要がある。 ・一部に遅刻等を繰り返す生徒がいた。家庭との連携を密にし、生活習慣を見つめなおすように指導していきたい。 ・到達度テスト等の振り返りがありできなかった。自己分析と学力の一層の向上を促すよう指導していきたい。
		月初めの服装容儀指導、毎時間の授業における指導のみならず、休み時間や登下校においても、きちんとした身なりを徹底させる。 ①②	B	
	いじめが起こらないような環境づくりに努める。	家庭との連絡を密にし、安易な欠席・遅刻・早退の防止に努める。 ①	A	
		朝の立哨や昼巡回を積極的に活用し、生徒の観察・挨拶指導・個人面談等を通して、生徒の理解に努める。 ④	A	
	基礎学力の向上に努め、自ら学ぶ姿勢を育てる。	学年内、保健室、保護者等との様々な情報交換を密にするとともに、授業も有効に活用し、いじめや問題行動を未然に防止できる体制を整える。 ③④	B	
		習熟度別学習やT T、ICT 活用授業等指導形態を工夫することにより、基礎学力の定着を図る。 ③⑥	B	
	進路についての啓発を図る。	到達度テストの事前・事後指導を通して日々の学習の成果を自己分析させ、小さな成功体験の積み重ねから学習意欲を育む。 ⑦⑧	B	
学校行事や部活動への積極的な取り組みを促す。	放課後の補習や個別指導を通して、苦手教科の克服に努めるとともに、進学希望者の学力向上に務める。 ⑭	B		
	インターンシップ実施のための一連の探究学習や、進路学習、地域ボランティア、就業体験(HSコース)を通して、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。 ⑯	A		
働き方改革の推進を図る。	団体行事を実践することで、学年全体で意識を高め行動できる力を養う。また、集団としての帰属意識を高める。 ⑮⑯	B		
	修学旅行を有意義な教育の機会とするために、SDGs等を題材とした探究学習を交え、計画的な指導を行う。また、学年行事は可能な限り全員参加を目指す。 ⑬	A		
3 学 年	基本的な生活習慣を確立させる。	教員間の連携を密に図り、業務の遂行に必要な情報を共有する。また、業務の削減や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。 ⑤⑥	B	
		服装容儀指導に限らず、服装面・生活面を振り返る機会を設け、最上級生としての自覚、規範意識の定着を図る。 ⑳	C	
		挨拶・返事、礼儀や言葉遣いを日常的に意識させることで習慣化を促し、卒業に向けて内面の成長を促す。 ㉑	B	
	いじめにつながりかねない事象の早期発見と、素早く適切な初動に努める。	欠席連絡や、遅刻カードの記入と声かけを厳格化し、欠席・遅刻の増加を抑える。 ①④	C	
		HRや授業等、生徒の様子や変化に注視し情報を共有する。また、他学年の先生や授業担当者との連携を積極的に行い、生徒理解に努める。 ㉒	B	
	個々の能力に応じた指導を心がけ、基礎学力の向上をめざす。	保護者連絡については事案の大小にかかわらず積極的に行うとともに学年全体で協力体制を確立し、保護者との連携強化を図る。また、トラブル等の未然防止、早期発見に努める。 ㉓	A	
		キャリアタイムやLHR、放課後の時間を有効に活用し、就職や進学に必要な基礎学力や一般常識、面接での受け答えなど対応力を身に付けさせる。 ⑭⑯	A	
課題を発見し解決していくための資質・能力を身につけさせる。	数学での習熟度別授業や、国語でのT T授業、英語でのALTとの共同授業を効果的に活用し、生徒個々にきめ細かく教科指導を行う。 ⑦⑧	A		
	課題研究を通して、課題発見能力や問題解決能力の向上を図り、思考力や合意形成の方法など、社会人として必要な資質能力を身に付けさせる。 ㉔	B		
生徒一人ひとりに応じた進路目標の実現を図る。	キャリアガイダンスや、進路講演会を活用し、キャリア教育の推進を図る。将来的に自身がどのようになりたいかを具体的に考えるきっかけを与える。 ⑯⑰	A		
	段階的面接指導を工夫・改善し、個に応じた進路目標の実現を目指す。 ⑱	B		
働き方改革を推進する。	行事の実態を把握し、行事の精選、実施方法の改善を図る。また、業務分担の工夫や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。 ㉕	B		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分